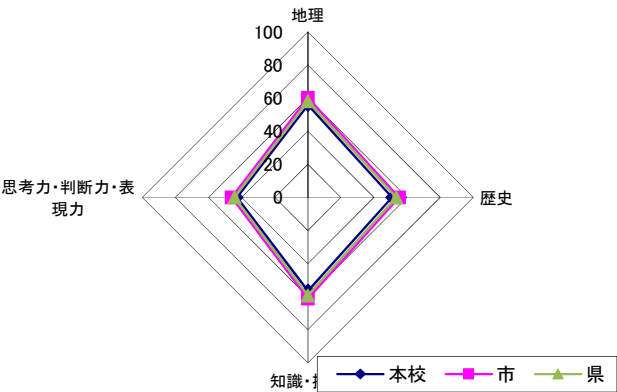


宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.8	60.1	58.1
	歴史	50.9	55.1	53.5
観点	知識・技能	56.5	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	42.9	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は市の平均を4.3p、県の平均を1.3p下回っている。 ○世界各地の気候や人口構成について、おおむね理解できている。そのため、複数の資料を比較して違いを探したり、各州の重要な特徴について選択したりする問題の正答率が高くなっている。 ●各地域の特徴から共通点を見出すことや、グラフ（特に雨温図）を区別する問題を苦手になっている生徒が多い。また、地形等について正確な位置を把握することも課題である。	・グラフの読み取りだけでなく、複数のグラフの比較を授業の中で取り入れていく。また、常に既習の知識と関連させた授業展開に努め、多面的・多角的な理解を深めるよう指導を行う。
歴史	平均正答率は市の平均を4.2p、県の平均を2.6p下回っている。 ○古代の日本（旧石器時代から平安前期）について、日本がどのように成り立っていったのか、理解をしている。 ●歴史的事象について、その背景や与えた影響など流れにそった理解が不十分である。また、中世（平安後期から室町時代）など時代が進むにつれて苦手を感じる生徒が多い。	・年表等を活用しながら、人物や出来事の関連を踏まえ、ストーリー性をもった指導を行う。また、人物やその人物が行ったことなどについて、教え込む指導だけでなく、自ら調べさせたり、図表に整理したりするなどの工夫から基礎的・基本的な事項の習得を図る。